



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

豊口 和士

これからの書写・書道教育 (23)

平成29年3月に小学校・中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領が改訂・告示され、令和2年4月に小学校、令和3年4月に中学校、令和4年4月に高等学校（年次進行）でスタートした新しい教育課程も、今年度をもって小学校、中学校、高等学校のすべての校種で実施されることになりました。

新しい学習指導要領の趣旨、新しい学習評価の考え方、GIGAスクール構想等に基づく学習指導もさらに充実していくものと思います。今後の改訂ですべての教科・科目において示された育成を目指す資質・能力の確実な育成に向けて、学校教育現場では不断の努力が続いていることと思います。学校だけでなく、社会全体で児童・生徒の学びと成長を支援してまいります。

本連載では、今次改訂を踏まえた、これからの書写・書道教育と、関連する事項について紹介していきます。

今回は、前回（令和六年一月号）に引き続き、高等学校学習指導要領芸術科書道の中に新設した「共通事項」について、できるだけ噛み砕いて解説していきます。

（以下、前回の内容の再掲示）

二 「共通事項」の内容

（1）「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。

イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

〈書及び書の美を捉える上での四つの視点〉

- ① 時間性と運動性
- ② 書の表現性
- ③ 書を構成する要素
- ④ 造形性と空間性

③ 書を構成する要素（つづき）

書を書きとして成立させ、書特有の「表現性」を生み出す具体的な書の構成要素として示された「書を構成する要素」は次の通りです。

- ・用具・用材の特性や用筆・運筆から生まれる「線質」
- ・書風が端的に表れ、書風を形づくる「字形」
- ・文字構成、全体の構成等の「構成」
- ・さらに、これらを支える要素としての「墨色」や「余白」等

小・中学生の皆さんには、やや難しいところもあるかもしれませんが。

【線質】

「線質」については、文字を構成する点画における、毛筆ならではの線の性質や表情、それによって受け取られる印象といったものと考えてよいでしょう。鋭い印象の線、ゆったりとした温かい印象の線、厳しい印象の線、伸び伸びとした印象の線、乾いた印象の線など、おそらく皆さんも書における毛筆で書かれた点画に対して感じたことがあるのではな

いでしょうか。ここで印象としたのは、「線質」というものは経験を重ねて体験的に理解が深まっていくものであり、その性質や効果を具体的に説明できなくても、毛筆で書かれた点画に対して、線の性質や効果、表情を直感的に感じ取っているのではないかと思われるからです。言うまでもなく、毛筆で書かれた線には「線質」が顕著に表れますが、日常生活で広く使用される鉛筆やペン等の筆記具で書かれた線からも、毛筆ほどではありませんが、もちろん「線質」を感じ取ることはできます。

もしかすると、一連の文字群や文章が一定の書きぶりで、統一した線質で書かれていると、大人の書いた筆跡と認識されるのかもしれませんが。

先に示した「書を構成する要素」の各要素はそれぞれに関連しながら書を構成するわけですが、「線質」に注目して考えれば、「線質」は「用筆・運筆」と大きく関わっています。

用筆とは、毛筆の使い方であり、細かく言えば筆毛（毛筆の毛の部分

であり、一般的に穂と呼ばれる部分）の働かせ方のことです（必ずしも毛筆に限ったものではなく、硬筆でも同様に用筆と言います）。運筆とは、筆の運び方のことです（用筆と同様、硬筆でも運筆と言います）。

用筆・運筆は、書の表現においては筆者の思いや感興によって自然に生じるものですが、あくまでも技能として身に付いていて初めて自然に生じさせることができるのであって、用筆・運筆の技能は学校教育や社会教育の中で段階的に学習されます。

例えば、小・中学校の国語科の書写では、硬筆による運筆の基礎となるよう、毛筆を使用して基本的な用筆と適切な運筆について学習します。

その後、高等学校芸術科書道では、様々な書の古典と向き合い、鑑賞や臨書等の学習活動を通じて、「書を構成する要素」とともに様々な用筆・運筆を体験的に学習し、自身の創造的で個性豊かな表現に生かすべく、基本となる用筆・運筆の技能を身に付けていきます。

用筆の例としては、直筆・側筆、方筆・円筆、露鋒・藏鋒、順筆・逆筆のほか、俯仰等の要素があります。運筆の例としては、筆圧の軽重、遅速、緩急、筆脈・気脈等の要素があります。

以下、用筆と運筆について簡単に説明しておきます。

用筆の例

- *直筆 筆の軸（筆管）を紙に対して垂直に立てて書く筆使い
- *側筆 筆の軸（筆管）を紙に対して傾けて書く筆使い
- *方筆 点画の輪郭を角張った形に書く筆使い
- *円筆 点画の輪郭を丸みのある形に書く筆使い
- *露鋒 始筆（起筆）で、穂先が線の外側に現れる筆使い
- *藏鋒 始筆（起筆）で、穂先を線の中に包み込む筆使い
- *順筆 始筆（起筆）で、線の進行方向に逆らわずに自然に筆を入れる筆使い
- *逆筆 始筆（起筆）で、線の進行方向とは逆方向に筆を入れる

る筆使い

*俯仰 線の進む方向に筆の軸（筆管）を傾ける筆使い

運筆の例

- *軽重 筆から紙にかける圧力を強めたり弱めたりする筆運び
 - *遅速 筆を動かす速さを速めたり遅くしたりする筆運び
 - *緩急 筆を動かす動きを緩めたり急いだりする筆運び
 - *筆脈 文字や言葉を書く上での線のつながり、筆の通り道
 - *気脈 文字や言葉を書く上での気持ちや線のつながり
- 用筆と運筆は相互に連動し合って働き、「線質」の変化を生みます。「線質」の変化の例としては、太細、強弱、遅速、緩急などが挙げられますが、先にも触れたとおり、こうした変化も含めて、皆さんは線の印象として捉えているのではないでしょう。そして、「線質」の変化は他の要素と相互に働き合って、変化や調和、律動といった書特有の「表現性」や「表現効果」を生み出していくこととなります。（次回に続く。）